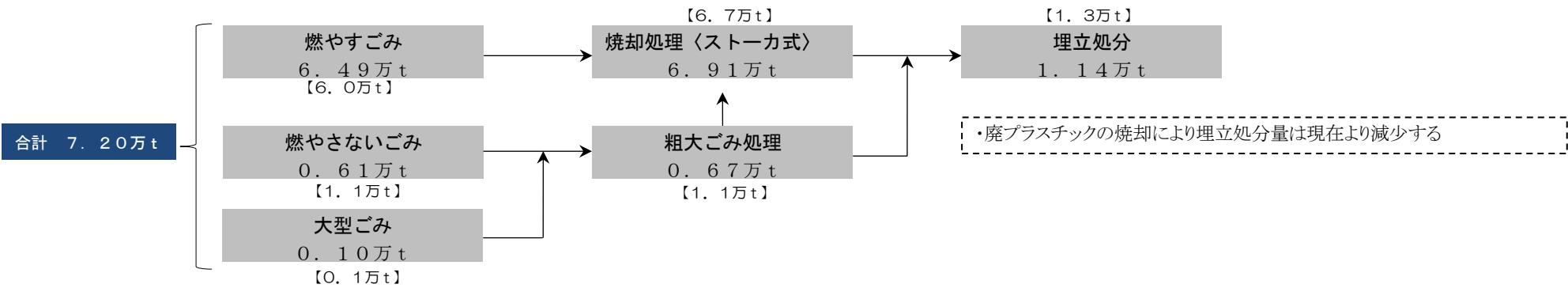


※ 廃プラスチックをリサイクルする可能性もあるが、現時点では詳細が不明のため、
廃プラスチック全量を焼却（または溶融）処理する場合のイメージ。
⇒ すべてのケースにおいて廃プラスチック燃焼分の二酸化炭素排出量が増加

ケース 1 ： ストーカ式

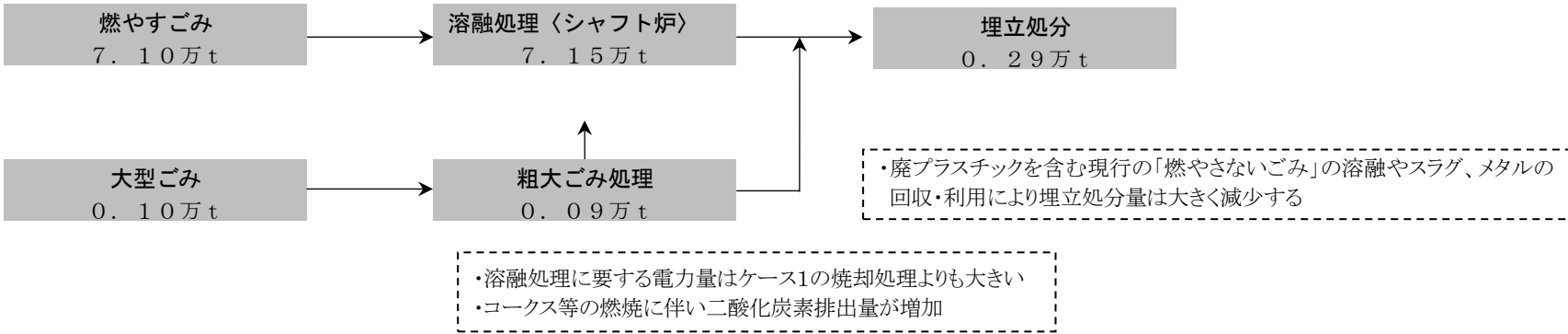
- ・ 現行と同様に「燃やすごみ」をストーカ式焼却炉により焼却処理する
- ・ 廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行

【 】は現行（ストーカ式・廃プラスチックは埋立処分）の数値



ケース 2 ： シャフト炉式

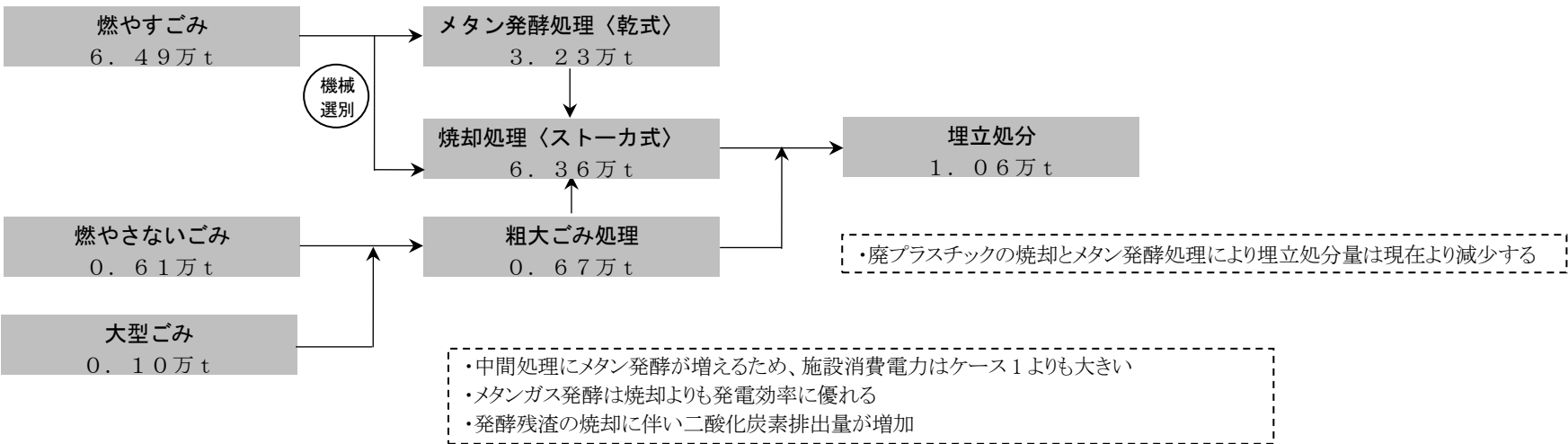
- ・ 「燃やすごみ」をガス化溶融/シャフト炉式で溶融処理する
- ・ 廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行
- ・ 炉の方式としては現行の「燃やさないごみ」を「燃やすごみ」に移行することができる



ケース 3 ： ストーカ式＋メタン発酵（乾式）

生ごみが 100%機械選別できる場合

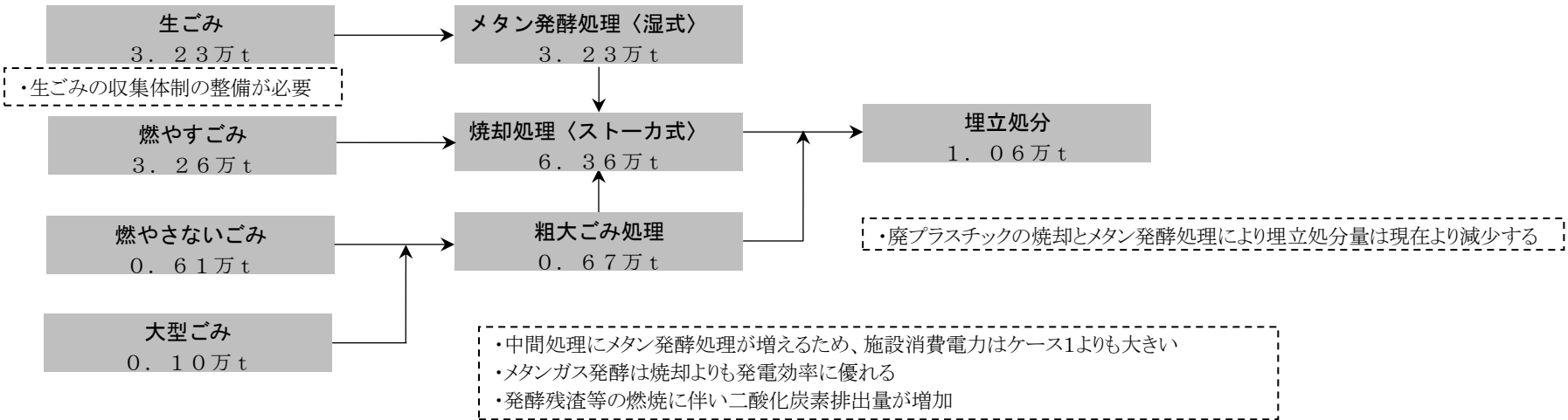
- ・ メタン発酵処理する「生ごみ」は「燃やすごみ」として収集し、施設において機械選別
- ・ 廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行
- ・ メタン発酵残渣は焼却処理（※堆肥化することも可能であるが、本検討では焼却処理するものとする）



ケース 4 ： ストーカ式＋メタン発酵（湿式）

生ごみが 100%分別排出される場合

- ・ メタン発酵処理する「生ごみ」は「燃やすごみ」と分別排出
- ・ 廃プラスチックが現行の「燃やさないごみ」から「燃やすごみ」に移行
- ・ メタン発酵残渣は焼却処理（※堆肥化することも可能であるが、本検討では焼却処理するものとする）



ケースごとの現行（ストーカ式・廃プラスチックは埋立処分）との比較

	ケース 1 （ストーカ式）	ケース 2 （シャフト炉式）	ケース 3 （ストーカ式＋ メタン〈乾式〉）	ケース 4 （ストーカ式＋ メタン〈湿式〉）	比較結果（左から評価が高い順）
住民の分別負担	→	→	→	↑	現行＝ケース 1＝ケース 2＝ケース 3<ケース 4
最終処分量	↘	↓	↘	↘	ケース 2<ケース 3＝ケース 4<ケース 1<現行
二酸化炭素排出量	↗	↑	↗	↗	現行<ケース 1＝ケース 3＝ケース 4<ケース 2

注 メーカー・機種によって異なるため、最終処分量及び二酸化炭素排出量の詳細な検討が必要